

安城校区が5年後・10年後こうなるといいなと思うものはどれですか?
「質問項目2」から浮かび上がる校区の姿

安城校区：全体集計

3 現役世代の活躍：地域資源に根ざした産業の再起動による人口と交流の拡大

C001 農業等の一次産業と観光産業、商業を主軸に、産業支援・住宅支援をすることで定住人口と交流人口が増えている。

B004 農業等の一次産業と観光産業、商業を主軸に、産業支援をすることで定住人口と交流人口が増えている。

A005 農業等の一次産業と観光産業の発展を主軸に、企業の維持・拡大を支援することで、定住人口と交流人口が増えている。

004 農業等を核とした一次産業の発展により人口が増えている。

010 観光客が増えるように観光地化し、交流人口が増えている。

007 既存企業への支援や企業誘致により働く場の確保ができる。

005 大型ショッピングセンター・コンビニを誘致し、交流人口が増えている。

001 移住者を受け入れて人口が増えている。

008 空き家が管理できる仕組みを構築し、人口が増えている。

通底させ
運動させ

2 次世代の継承：育成支援の充実

B003 結婚・子どもの増加・子育て・学校教育の支援が充実している。

002 単身者が結婚できるようサポートし、人口が増えている。

A001 子どもの増加・子育て・学校教育の支援が充実している。

003 小学校の留学生を増やし、複式学級がなくなっている。

4 老後の生活：生きがいのある日々

B002 高齢者が自立した活動ができる地域生活基盤と見守り・支援体制が整えられ、住みやすく生きがいのある日常生活がおくれる地域になっている。

A002 校区内に高齢者の拠点施設や見守り・支援体制が整えられ、住みやすく生きがいのある日常生活がおくれる地域になっている。

003 小学校の留学生を増やし、複式学級がなくなっている。

014 安心して子育てできるよう子育て支援が充実している。

015 健康寿命を伸ばし、自立した高齢者が増えている。

006 校区内で高齢者施設や拠点施設をつくり、見守り体制の構築や生きがいづくりの場ができる。

012 ゴミ出しや草刈などの支援や見守り、安否確認ができる支援が増え、高齢者が住みやすい地域になっている。

009 高齢者がいつでも移動できる交通機関の手段を確保し、行きたいところに移動できる。

6 地域の変わらない価値：自然と文化のなかの暮らし

016 このまま穏やかな自然や文化のなかで暮らしていきたい。

5 地域共同体の保持：負担軽減による自治活動

B001 校区と集落の自治活動の住民負担を軽減したうえで、伝統的な地域自治活動が維持できている。

A004 校区と集落の役員と住民の労力・負担金を減らし、最小限の自治活動と住民生活が維持できている。

018 行事は最小限にし、区長や集落長など役員の負担を減らすことにより自治会が維持できている。

017 集落費や校舎費を下げて現在、住んでいける地域に住み続けている。

013 住民同士の交流を深めることにより、地域行事を存続できている。

1 防災対応：災害に強い地域づくり

011 災害時に避難できる頑丈な避難場所が確保され、災害に強い地域づくりができている。

■アンケート集計結果

ランク	得点幅	模様
A	57～70	■■■■■
B	43～56	■■■■■■
C	29～42	■■■■■■■
D	15～28	■■■■■■■■
E	1～14	■■■■■■■■■

(最高得点：67点)
(回答者数：100人)

019 その他：

- (1) 2021年7月9日
(2) 情報工房
(3) 校区アンケート「質問2」の質問18項目
(4) 山浦晴男

注1) 文頭の数字は、質問項目の番号を示す。
注2) 文頭のアルファベットは、階層構造の段階を示す。
注3) 左上の丸数字は、分析結果の解説のストーリーの流れを示す。

安城校区「地域づくりアンケート」回答結果

(2021年6月アンケート)

【分析結果】

「質問2の項目」（5年後・10年後こうなるといいな）から浮かび上がった校区の姿は、次のようにある。

5年後・10年後の願う校区の姿は、まず社会基盤となる「防災対応」で、「災害に強い地域づくり」にある。災害時に避難できる丈夫な避難場所が確保され、災害に強い地域づくりができている。

これを基盤に、人生航路に沿って3つの要素の実現を描いている。

第1は「次世代の継承」で、「育成支援の充実」にある。結婚・子どもの増加・子育て・学校教育の支援が充実している。

第2はこの人生航路の先にある「現役世代の活躍」で、「地域資源に根ざし産業の再起動による人口と交流の拡大」にある。農業等の一次産業と観光産業、商業を軸に、産業支援・住宅支援をすることで定住人口と交流人口が増えている。

第3はこの人生航路の先にある「老後の生活」で、「生きがいのある日々」にある。高齢者が自立した活動ができる地域生活基盤と見守り・支援体制が整えられ、住みやすく生きがいのある日常生活がおくれる地域になっている。

そしてこの人生航路の先で、第1の「次世代の継承」へとバトンタッチする。

このようは人生航路を歩む立脚基盤をなすのは「地域共同体の保持」で、「負担軽減による自治活動」にある。校区と集落の自治活動の住民負担を軽減したうえで、伝統的な自治活動が維持できている。

このような姿に潜在する「地域の変わらない価値」は、「自然と文化のなかの暮らし」にある。このまま穏やかな自然と文化のなかで暮らしていきたい、という思いである。

以上が、校区の5年・10年先の「将来像」である。